

弘化丁未春三月廿四日信州大地震山頽川塞湛水之凶

弘化四年（一八四七年）六月。原昌言編 山城屋伝兵衛

蔦屋伴五郎 上野屋三郎助。「弘化丁未春三月廿四日信

州大地震山頽川塞湛水之凶」と「弘化丁未夏四月十三日

信州犀川崩激六郡漂蕩之凶」とを合わせて「弘化丁未信

濃国大地震之凶」とする。1行目の「往^{シム}ニ東国^ニ」は一、

二点の二が欠か。

弘化丁未春三月廿四日信州大地震山頽川塞湛水之凶

○三代實録^{十五}日（略）

○扶桑略記^廿日（略）

○古伝^ニ曰 推古帝十五年大仁^{六位}鳥臣^{トリンオミ}往^{シム}ニ東國^ニ廻^リニ箕野^{ミノ}

一^ニ至^リニ科野^{シナノ}一^ニ治^ニ水内ノ海^ラ一^ニ至^ニ上毛^ニ一^ニ治^ムニ利根ノ海^ラ一^ニ乃^チ

割^リニ戸河ノ瀧磐^{イハ}一^ニ入^ニ雁越^{カリコシ}一^ニ開^クニ栗柄ノ路及上邑ノ路^{アゲロ}一^ニ々^云

按るに水内郡水内邑ハ本郡初発の地にして上

古に水内の海と聞へしも此邊をいへるにや今なを北の郡

に大沼あまたありこれそのなごりなるべしこの地北は戸

隠^{けしき}の峻嶮により東南に犀川を帯ひ西に境川あり東に澗花^{すゝはな}

川ありいはゆる島をなせり実に水内橋の奇巧たくみなかりせは
便りなかるべしおもふにみぬちの名こゝに出しにやあら

ん

堪囊鈔 善光寺ノ来由ノ条ニ云信乃ハ高キ地ナルニ殊ニコノ郡ノ高ケレハ水落ノ郡也トイヘ
レド我国十郡ノ地最厚高ニシテ天下ノ上流タリナンゾ是郡ヲ以テ高シトセンオボツカナシ

水内の曲橋

又久米路ノ橋トモ云哥枕名寄ニ信乃トス又来目ノ岩橋ナド詠ルハ大和ノ葛城ニ
在ト 拾遺集 埋木ハ中むしばむといふめれバくめちの橋ハ心してゆけ よみ

人し
らす

○日本紀曰 (略)

註 信州地域史料アーカイブに画像あり。